

研究紹介 クラゲはどんな生き物

(ご自由にお持ちください)

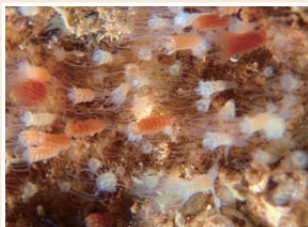
内湾域などでは、クラゲ類が大量に来襲してくると、漁業中に魚網等が揚がらなくなったりして、操業が困難になることがあります。また、沿岸域に立地する発電所では、取水口へ流入しスクリーン等を閉塞させ、発電障害の一要因になることがあります。海生研では、沿岸域へ来遊するミズクラゲについて、平成11年度から中部電力株式会社の委託事業として、その初期生態などを研究しています。

本種は、成熟すると有性生殖によって受精卵ができますが、それはしばらくすると表面に纖毛の生えたプラヌラとなって、自力遊泳できるようになり、次いで静穏域にある構造物等の裏面に付着し、変態して着底生活をするポリプとなります。

ポリプは、その状態を好んでいるかのように、好条件が続けば無性生殖で増え続け、その寿命はよくわかっていません。しかし、冬季になって、水温が低下すると、一変して仲間を増やすことを止め、自らの触手をも退化させ、体側にクビレを作り、その先端から浮遊生活をするエフィラを放出します。

この現象は、水温が低下した冬季に起きますが、本種は暖海水を好むので、これはポリプがその海域を生活するのに適さなくなったと判断し、子供たちを旅立たせているようにもみえます。なお、同じ仲間のエチゼンクラゲでは、この現象は水温が上昇する初夏に起きます。

(中央研究所 海洋環境グループ 青山 善一)



ポリプなどの生息状況

財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明を中心に、食の安全・安心や海生生物の保護に係わる海洋環境中の微量化学物質や放射能の実態把握等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第45号

平成22年10月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町347 藤和江戸川橋ビル7階 ☎(03) 5225-1161

中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111

実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.45

★★★ 魚のことわざ ★★★



財団法人 海洋生物環境研究所

魚のことわざ

〈その43〉

—マグロ—

海とその生物にまつわる諺や格言についてお話ししましょう。
今回は、マグロ(スズキ目サバ科マグロ属の総称、和名: 鮪、英名: Tuna)をご紹介します。

マグロの語源は比較的新しく、「真黒」または「眼黒」から転訛したものとされますが、古くから「シビ」と呼ばれて来ました。今でも地方によっては、この名が使われることがあります。

代表格のクロマグロ(別名ホンマグロ)の他に、キハダ、ミナミマグロ(別名インドマグロ)、メバチ、ピンナガ、コシナガ、タイセイヨウマグロなどの種があり、世界中の海に広範囲に分布し、群れて回遊を行う大型肉食魚です。

ちなみに、カジキマグロ、イソマグロは、和名に「マグロ」が付きますが別の仲間の魚です。

マグロ類は典型的な高速遊泳魚で、体形は紡錘形をなし、生理的に昼夜休むことなく泳ぎ続けると死んでしまいます。クロマグロでは体長3m、体重400kg以上にも達します。

漁法としては、延縄、曳縄(トローリング)、巻き網、定置網、一本釣り、突きん棒などがあります。また、近年は養殖(蓄養)も盛んに行われています。

マグロ類は、種により旬もそれぞれ異なると言われ、刺身、寿司種、煮物、焼物、酢物、缶詰など、総菜から高級料理に至るまで用途が広く、世界各地で好んで食されています。

昨今は、地球規模での生物種としての個体数の減少が危惧される時代になりました。今後は、乱獲防止による資源保護に加えて、完全養殖技術の飛躍的な発展・普及が期待されるところです。



1 「鮪の鼻」

誰も見たことのないもの、信じられないことの例え。
鮪の頭は旨いため、漁師が切り取ってしまい、仙台の魚市場に入る鮪には頭がなかったことからの発祥という。



2 「鮪の鰭回し」

シャチに追われたマグロが沿岸に寄って来て、人手を掛けることなく定置網などに入り大漁すること。「濡れ手に粟」の例え。



3 「鮪の打ち鉤」

「はつ」は関西・高知地方などでいう鮪類の若魚の総称。打ち鉤は、魚の身に引っ掛け、下げて持ったり移動させる小道具。自分に都合のいいことをいう。我田引水であるということの洒落。



4 「鮪を抱いて寝たよう」

一緒に寝ても何の情感も湧かないことをいう。ちなみに、「鯉を抱いたよう」は、赤ん坊が抱かれてもじっとせず、絶えず動く元気なさまをいう。